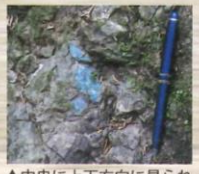
おおい自然園

No.135

# 七滝周辺の玉髄（ぎょくずい）

大井町高尾から中村川をさかのぼったところに、玄武岩の溶岩でできている「七滝」と呼ばれる滝があります（2019年3月号のこの紙面で紹介）。滝に至る沢沿いの露頭を調査していた時、滝の手前の硬そうな岩をハンマーでたたいたところ、割れた岩の断面に玉髄と呼ばれる鉱物が出現しました。玉髄は微小な石英が集まってできた鉱物で、含まれる元素の違いで白や灰、赤、緑などさまざまな色に変化します。良質のものは宝石にもなります。今回見つけた玉髄は、暗灰色の地層に水色が映えるきれいなものでした。

上下方向につながっていることから、二酸化ケイ素（$SiO_2$）に富む熱水が、岩の割れ目に沿って入ってきて、冷えて固まってできたものかと思われます。熱水の原因も、七滝をつくった玄武岩の溶岩を噴出した火山活動が関係していたのかもしれません。なお、大井町からの玉髄の報告はないので、新発見ということになりそうです。



▲中央に上下方向に見られる水色の鉱物が玉髄

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員　山下浩之

【おおい自然園 HP】

▲大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。

【自然NOWへの投稿】

▲町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で